

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 30 日現在

機関番号：12603
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20520491
研究課題名（和文）インターネット環境での国際間の新しい語学遠隔教育方法の可能性に関する研究
研究課題名（英文）A research of new international distance language education method on INTERNET
研究代表者
林 俊成（LIN ChunChen）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：70287994

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：異文化コミュニケーション・e-Learning・CALL

1. 研究計画の概要

本研究は、インターネットを介して、海外の大学と連携して国際間の新しい語学教育方法を探ることを目的としている。具体的に下記の2つのテーマからなる。

(1) インターネットを利用して、海外の大学における日本語学習者と、日本の大学における中国語学習者に対する授業方法に関する研究

(2) インターネットを利用して、海外の大学に対する日本語教材の提供を行う方法、および評価を行う方法に関する研究

2. 研究の進捗状況

(1)のテーマについては、平成20年度では、ネット上における構成主義言語学習指向の授業を実施するとともに、その評価を行った。平成21年度において、引き続き構成主義言語学習理論に基づき、各種の協働作業による授業活動を開発し、評価し続けた。平成22年度では、我々が行われてきた講義方法をほかの授業にも、波及できるようなカリキュラムの設定を準点に置いた。これらとも、おおむね計画とおりに進行した

上記の(2)のテーマについて、平成20年度では、e-learning システム上で利用する Web 教材の開発に着手し、台湾の教員と共同で実際に利用する教材の内容を選定し、台湾側の教員の視点を含めて評価ポイントを定めた。平成21年度では、設計された教材を作成し、実際に海外の日本語学習者に利用してもらい、評価してみた。これらの結果は、22年度で発表した。これらとも、おおむね計画とお

りに進行した

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

本研究では、(1)において、当初の計画とおりに進展しながら、本手法に汎用性を持たせるため、カリキュラムの設定基準に力を注いだ。

(2)において、計画通りに教材を開発し評価を行い、経験とも学会発表などを通じて、会社に発信した。

4. 今後の研究の推進方策

本研究テーマの最後の年度において、再度今までのデータを整理し、(1)において、実施する方法とカリキュラムの汎用化に力をいれ、もっと多くの方に実施されることに推進する予定である。(2)において、社会貢献を目的として自由利用可能な教材を公開し、さらに、フレームワークの公開により、もっと汎用的な教材開発手法を公開する予定。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

林俊成, 羅曉勤, “精緻化理論に基づいた日本語会話 CALL 教材の開発”, 2010 世界日語教育大会, Pp1607_0-1607_8, 2010 年 7 月 31 日

宮崎里司, 陳淑娟, 林俊成, 堀越和男, “第二

言語習得研究のグローバル化遠隔システムによる共同研究のための連携構築をめざして-インターネット環境における語学教育利用の可能性”, 2010 世界日語教育大会, (専題討論), Pp1-30 (8-15), 2010 年 7 月 31 日

林虹瑛, 林俊成, “用溝通式教學法來進行遠距跨國交流課程”, “CLT(Communicative language teaching)教授法で日台遠隔協働授業の実施について”, 第六屆全球華文網路教育研討會 (The 6th International Conference on Internet Chinese Education), pp178-187, 2009 年 6 月

林俊成, 海野多枝, “ウェブ対応日本語会話教材の開発と E-ラーニング環境での利用評価”, 2009 『ヨーロッパ日本語教育』 (The Proceedings of the 2008 Symposium on Japanese Language Education) 13 号 pp.50-57. 2009 年

Chunchen LIN, Yuji KAWAGUCHI, "Development and Utilization of TUFs Language Modules”, 日本 e-Learning 学会国際シンポジウム, Pp. 28- 33, 2009 年 3 月

林俊成, “日中遠隔協働授業における語学教育の実施とその評価”, 東京外国語大学論集第 76 号, pp. 191-212, 2008 年 10 月

林俊成, “中日語言教育遠隔協同教學之實施及其評估”, 第一屆華語文教學國際研討會暨工作坊論文集, ISBN:978-086-147-251-5, Pp. 147-161, 2008 年 3 月

[学会発表] (計 4 件)

Chunchen LIN, Development of a Recording Tool on LMS for Web-Based Language Learning and L2 Phonological Studies, CLTA Conference 2011, 2011/03/19, Hyatt Regency, Santa Clara, California, Poster session, 2011/03/19

林俊成, 林虹瑛, 堀越和男, “日中遠隔協働授業におけるコミュニカティブ語学教授法の実現と評価”, 日本教育工学会第 25 回全国大会, Pp. 259-260, 2009 年 9 月

林虹瑛, 林俊成, “学生を主体とする異文化交流遠隔教育シラバスデザイン”, 中国語教育学会第 8 回全国大会, 口頭発表, 2009 年 6 月 6 日、7 日 於 愛知大学

Chunchen LIN, “A Trial of Foreign Language Education through Japan-Taiwan

Cooperative Distance Learning Lessons on the Internet”, Society for Information Technology & Teacher Education International Conference Annual, March 2-6 · Charleston, South Carolina, USA, Pp3348-3351, Poster, 2009/03